

イチゴ新品種「みおしずく」について

1. 昨年度（令和 4 年度）の生産、販売の結果

昨年度は、9 名の生産者が 0.3ha で試験栽培され、11 月末から 5 月まで県内量販店でテスト販売された。販売量は 40,896 パック、販売金額は約 2,760 万円であり、量販店のイチゴ全販売数量の約 5%であった。販売単価は、他県産のブランドイチゴと同等の価格帯であった。

2. 今年度（令和 5 年度）の生産、販売の状況

今年度は、65 名の生産者が約 2.2ha で栽培され、11 月末から県内量販店等で販売を開始、5 月末までに約 17 万パックが販売される見込みである。

新たな取組として、12 月中旬から首都圏の百貨店で専用の化粧箱を用いた販売が開始された。

また、「みおしずく」を使った商品として、ご当地グミやクリスマスケーキなどが商品化されたことに加え、

2 月から、「みおしずく」や県産小麦・小豆などを使った「滋賀どら」が販売される予定である。



化粧箱（ギフト用）
百貨店での販売



みおしずく苺グミ クリスマスケーキ

3. その他のPR

1 月から県内量販店で生産者自らが「みおしずく」をPRするイベントを実施するとともに、「みおしずく」を原材料に使用したスイーツコンテストを実施する。利用促進や認知度の向上を目指し、プロ部門と一般部門に分け、作品募集を 1 月 5 日から 2 月 9 日まで実施する。

4. 新規就農者の生産状況

イチゴ栽培経験 1～3 年目の若い農業者 12 名が 0.34ha で、「みおしずく」を栽培されており、現在のところ順調に生産、販売されている。

5. 目指す姿

今後、さわやかな甘みやフローラルな香り、大粒で明るい赤色など、「みおしずく」の持つ魅力を、県内や首都圏等に生産者やJAグループ、企業と連携し、PR等の販売促進を行うことにより、本県を代表する園芸品目のブランドとして育成する。